

福岡県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	60点
問題構成	概要について 大問4題で構成されています。[一]説明的文章・[二]文学的文章・[三]古典・[四]作文です。 ※「言語」に関する出題は、今年は[二](2)に出題されています。 [一]は説明的文章で12点配点、[二]の(1)は文学的文章で12点配点、(2)は(1)の本文と関連させる問題や文法・漢字・語句・書写に関する問題で9点、[三]は古典で12点配点、[四]は作文で15点配点です。 出典について [一] 信原幸弘『「覚える」と「わかる」知の仕組みとその可能性』 [二] 朝倉宏景「エール 夕暮れサウスポー」 [三] 漢文の書き下し文『淮南子』とその現代語訳 [四] 資料：「国語に関する世論調査」（令和五年度 文化庁） 各大問の「記述式」問題の出題について [一] で出題された記述式は2問で、本文の内容をまとめた文の空欄に入る言葉を補う問題でした。 [二] で出題された記述式は1問で、5字以上10字以内で答えさせるものが出題されました。 [三] で出題された記述式は2問で、どちらも本文についての先生と生徒の会話から出題されました。 [四] は「日本語の魅力」について、棒グラフの資料をもとに意見を述べる作文です。 全体的問題数は昨年より2問減少し、記述式問題の文字数も比較的少ないため易しかったと言えます。		

	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)
問題量（A4で）	10ページ分	10ページ分	10ページ分	10ページ分	10ページ分
小問数	26問	28問	25問	27問	23問
論述問題の数	6問	5問	8問	8問	7問
論述問題配点	27点	24点	32点	31点	30点
受験者平均点	37点	39点	31点	36点	39点

【出題の傾向と対策】

①[一]「論説文」では文脈の把握や、接続語、段落の役割などの理解について問われています。

[一]から特徴的な問題をPickUp！（得点率69.1％）

問五 次の口の中は本文中で述べられている「直観」についてまとめたものである。[ア]に入る内容を本文中から六字で探しそのまま抜き出して書きなさい。（答え：抽象的な内容）

直観では、知覚と違って、物事の核心という[ア]のみが意識に現れる。

☞本文で注目すべきところ

すなわち、知覚においては、物事の具体的な内容が意識に現れるのに対して、直観では抽象的な内容しか現れない。

☞考え方と傾向

空欄[ア]の直前の言葉「物事の核心」だけに注目すると答えが見つけにくい問題になっています。テクニク的に前後を読むだけでなく、文全体をしっかりと読んだり、対立する意見を把握し比較したりと「文脈」を把握させる問題が出題されています。問一の空欄補充問題も同様に「文脈」と「対比」で考える問題であり、問二・四の「接続語」が関係する問題も「前後の文脈」を読む必要がある問題でした。文章全体をしっかりと読ませようという意図が伝わる構成になっています。

②[二]「小説文」では「様子」や「心情」の読み取りなど、情景の理解について問われる問題が目立ちました。

[二]から特徴的な問題をPickUp！（得点率32.1%）

問二 次の口の中は本文中の 一体感と熱気 について、ここから読み取れる様子をまとめたものである。イに入る内容を、五字以上、十字以内でまとめて書きなさい。（答え：【例】熱心に応援する）

選手のプレーに反応して[イ]観客たちが、一緒になって野球を楽しんでいる様子。

🔊本文で注目すべきところ

6行目 観客は熱心にグラウンドの動きに視線を注いでいる。

21行目 ～店の常連さんが野球部を応援してくれてるって」

45行目 ～客席から拍手や歓声があき起こった。

🔊考え方と傾向

抜き出しの問題ではないため、様々な答え方はできますが、読む範囲が広く、直接的に観客を修飾する言葉は本文に見当たりません。そのため、情景を想像して読み取り、自分の言葉で短くまとめる必要があります。

③[三]歴史的仮名遣い、漢文の返り点の出題、複数の文を読み比べる出題などが定着しています。

[三]から特徴的な問題をPickUp！（得点率61.4%）

問五(3) [ウ]に入る内容を、五字以内で考えて書きなさい。（答え：【例】否定する）

...宰折睢は、史官と違って哀公の考えを[ウ]言い方を避け、……。

🔊本文で注目すべきところ

現代語訳：史官は西側への増築は不祥ですと反対した。

🔊考え方と傾向

宰折睢がどのような言い方をしたかは本文から読み取る必要があります。また、史官の言い方をそのまま空欄に入れることもできません。単に「古文を現代語訳する」記述問題ではなく、本文の内容を理解したうえで書く必要があります。大問一同様に、文全体を見ながら対比を意識して書く必要があります。また、大問二の問二にも見られたように、情景を想像して短い言葉でまとめる記述式の出題です。

④[四]読み取るべき資料が一つであることや、知識や経験と結び付きやすいテーマであることから、比較的取り組みやすい作文でした。

[四]から特徴的な条件をPickUp！（得点率66.8%）

条件2 第一段落には、【資料】のA～Gの項目から一つ選び（どれを選んでもかまわない。）、選んだ項目の全体と16～19歳の回答結果を比較して分かること、それについてあなたが考えたことを書くこと。なお、項目はA～Gの記号で示すこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、日本語の魅力についてのあなたの考えを、自分の知識や経験と結び付けて書くこと。

🔊考え方と傾向

第一段落に資料からわかることと、それについて考えたことを書かせる指示と、第二段落に、自分の知識や経験と結びつけて考えを書かせる指示は、昨年と共通している。

作文例： 【資料】から、項目Aを選んだ人は全体で64.2%であるが、16～19歳では48.2%であり、比較すると、若い世代が日本語の様々な文字に魅力を感じる割合が低いとわかる。スマートフォンなどで変換機能に頼るため、文字の形や成り立ちに目を向ける機会が少ないのが原因だと考えた。

私は三種類の文字を使い分ける日本語は視覚的にも情報を整理でき、他の言語にはない魅力があると感じている。その思いは小学生の頃に書道を習い、文字によって様々な表現や伝わり方があることを学ぶ中で強くなった。これからも日本語の文字を大切にしていきたい。